

菌士郎® ATP抗菌テスト Ver.2

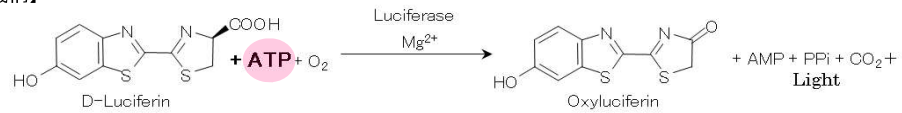
KKT2-100



<p>概要</p>	<p>ATP法を利用して、生菌数を迅速に測定するキットです。 ATPとホタルルシフェリン・ルシフェラーゼの反応により生じる発光は、ATP量に比例するため、発光量の測定により、サンプル中の生菌数を推定することができます。</p>
<p>希望小売価格 (税別)</p>	<p>50,400円</p>
<p>製品構成</p>	<p>ATP発光試薬 Ver.2 (凍結乾燥品) ATP発光試薬溶解液 (12 ml) ATP抽出試薬 (62 ml) ATP標準試薬 (2x10⁻⁹M、5 ml)</p>
<p>保存条件</p>	<p>-20℃、遮光 ※調製後の発光試薬は、-80℃</p>

【ホタル・ルシフェラーゼ発光反応機構】

発光量 (RLU) を
ルミノメーターで測定

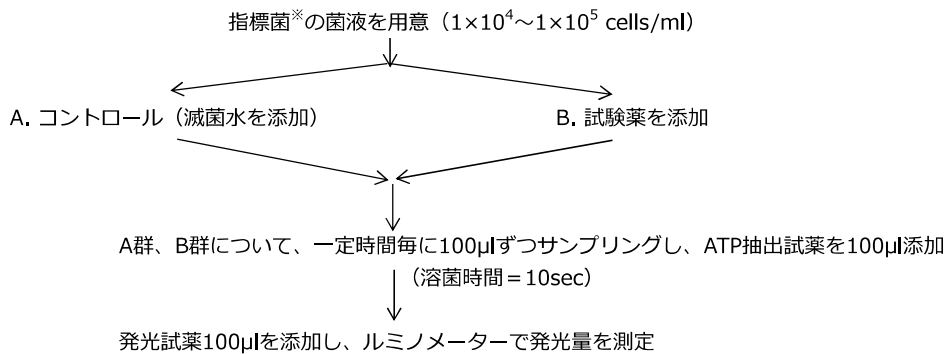


本製品は、ATP法を利用して生菌数を迅速に測定し、試験薬の抗菌性を確認する試験キットです。

ATP (アデノシン三リン酸) は、全ての生細胞に存在するエネルギー物質であり、ホタルルシフェリン・ルシフェラーゼと反応することにより発光を生じます。その発光量 (RLU : Relative Light Unit) はATP量に比例するため、発光量を測定することにより、サンプル中の生菌数を推定することができます。この原理を利用して、試験薬が抗菌性を有するかどうか確認します。

●測定フロー

※指標菌は本製品には含まれていません。別途用意して下さい。



➡ コントロール群と試験薬群の発光量を比較し、抗菌作用があるかどうか確認します。

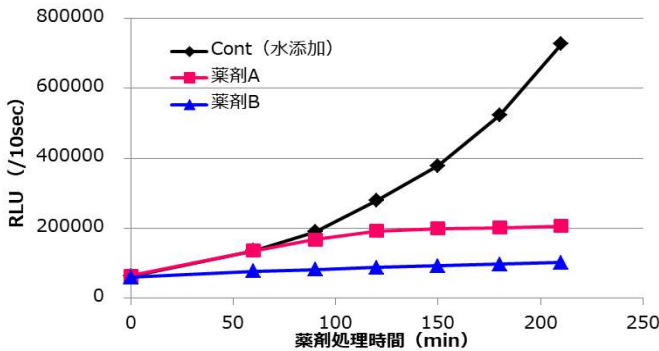


Fig.1 試験薬による抗菌活性の確認

(試験薬添加後、室温で静置した場合)

菌液に薬剤Aまたは薬剤Bを添加後、室温で静置し、一定時間毎にプロトコルに従って生菌数 (発光量) を測定した。

(※RLU実測値は、ルミノメーターの機種や菌種によって異なります)

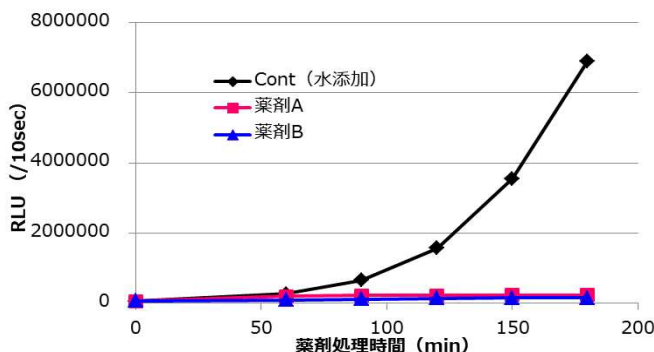


Fig.2 試験薬による抗菌活性の確認

(試験薬添加後、37°Cで振とう培養した場合)

菌液に薬剤Aまたは薬剤Bを添加後、37°Cで振とう培養し、一定時間毎にプロトコルに従って生菌数 (発光量) を測定した。

(※RLU実測値は、ルミノメーターの機種や菌種によって異なります)